

れきはく NEWS

vol.58
2024.MAR

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

企画展

「誕生、隠岐国」特集号

CONTENTS

- 2 企画展「誕生、隠岐国」
- 5 れきはく通信
- 6 イベントのおしらせ

企画展 誕生、 たんじょう、 おきのくに 隠岐国



特別色跡 平塚宮跡出土 木筒
奈良文化財研究所蔵・写真提供
【展示期間：4/3(水)～4/14(日)】

長尾王御宅跡出土 木筒
奈良文化財研究所蔵・写真提供
【展示期間：4/15(月)～4/26(金)】

阿弥如来坐像
隠岐の島町教育委員会蔵

長尾黒須定有形文化財
粟粒文方柱十字形刺把頭飾
対馬市教育委員会蔵・写真提供

重要文化財
国指定史跡 及古墳出土
皇鳳環頭大刀柄環
隠岐の島町教育委員会蔵・写真提供

重要文化財
国指定史跡 密雲寺出土
唐草文心葉形香葉
隠岐の島町教育委員会蔵・写真提供

重要文化財
高津久之守稲次郎遺品出土 玉製
知夫村教育委員会蔵

重要文化財
特別史跡 大野城跡 大宰府口城門出土 鬼瓦
九州歴史資料館蔵・写真提供

令和6年 3/22(金) ▶ 5/19(日)

企画展 **誕生、**
たんじょう、
おきのくに
隠岐国

令和6年 3/22(金) ▶ 5/19(日)

開館時間／午前9時～午後6時【3/22は特別展示室のみ10時開場】
会期中の休館日/4/2(火)、4/23(火)、5/7(火)

この展覧会の対象は、隠岐諸島に大型の古墳を築く首長が現れ、地域のまとまりが形成されていく6世紀から、対外関係上の要地として重視されていく9世紀にかけての隠岐の古代史。中心になるのは日本で国家が確立していく7世紀後半から8世紀前半の時期です。朝鮮半島との対立が大きな引き金となって、往き来の緩やかだった海に排他的な国境が生まれ、国家の中では一方に「中央」、一方に「辺境」「離島」が生まれました。「中央」である都には貴族、役人、労働者など直接食料生産にかかわらない消費者集団が大部分を占め、彼らの「食」を、各地方から都へ送り出された食料品が支えました。隠岐国が送り出したのは膨大な海産物でした。

外国に近く前線的な位置を占めていることと、都へ膨大な海産物を供給したことが、古代隠岐の歴史を特徴づけています。華やかな都の対極に位置する隠岐は、古代国家のもうひとつの顔でもあります。

このような大きな歴史の影響を絶えず受けながら、「隠岐国」は成り立っていきます。本展が地域のありようと、先人の営みを見つめるきっかけとなる場となれば幸いです。

プロローグ 自然と先人の贈りもの

アワビは成長するにつれシワや、貝殻にあって穴が増え、古い穴からだんだん塞がっていくといいます。アワビの成長記録を刻んだ貝殻は、隠岐の環境の豊かさを雄弁に物語っています。島民と自然の力が守ってきた、すばらしい環境の贈り物をかみしめながら、「目で味わって」いただければと思います。



アワビの貝殻

第1章 島を知る、日本と出会う ～「大八島国」をめぐる～

対馬や吉岐は九州や朝鮮半島と交流し、多様な文化を吸収してきましたが、6、7世紀に東アジアが緊張するなかで、対馬は日本の最前線、要塞の島に変貌します。吉岐は、各地の統合、支配を強めるヤマト政権の側に立って活躍、力を増して、ヤマトとの強い関係のなかで古墳文化の盛期を迎えます。国家形成と権力集中が進むなかで、それぞれの島の特性や国家の側からみた役割が明確になってきました。



重要文化財
国指定史跡 笹塚古墳出土
辻金具
吉岐市教育委員会蔵・写真提供

第2章 国家形成期の隠岐 ～ヤマトへの急接近～

古墳時代の隠岐では、のちの知夫郡、海部郡、周吉郡、穂地郡になっていく地域のまとまりができてきました。伝統的に伯耆など中国地方東側の地域と密接に交流した隠岐は、ヤマト政権とも早くからつ

ながりを持ちました。大型古墳を築いた島の首長たちは、ヤマト政権の支配下に入り、やがて国家の役人に転身していきます。首長たちの変遷と、それを支えた人々の歴史をたどりつつ、各島・各地域のまとま

りが一つの「隠岐国」へと衣替えしていく時代を考えます。



甲ノ原遺跡出土
墨書土器「郡」
隠岐の島町教育委員会蔵



やんばら
矢原遺跡出土 須恵器など
海士町教育委員会蔵



高津久横穴墓群出土
玉類
知夫村教育委員会蔵



横穴墓群出土の鉄製品
鋤先、鋸、鎌
西ノ島町教育委員会蔵

第3章 「律令国家の食料庫」、なの？



長屋王邸宅跡出土 木簡
「隠岐国海部郡佐々里 勝部乎坂 軍布六斤」
奈良文化財研究所蔵・写真提供

天皇、朝廷という、一つの「中心」が日本全体を統治する大きなシステム「律令国家」が成立しました。国家機構を支える大勢の人々の生活を、地方から都へ送られる膨大な物資が支えました。布や鉄、そして海産物。隠岐からは大量の海産物が送り出され、都の「食」を支えました。そして、証拠となるたくさんの荷札木簡が遺されました。貴重な歴史資料の木簡で

すが、そこから見えるのは「都へ海産物を送ってくる、便利な食料供給地」といういわばオモテの顔。じっさいに古代の隠岐で生業、生産を支えた人たちは、鋤やノギリ、鎌など多彩な生産用具をたずさえた人たちでした。時代が下って、近世や近代の隠岐で使われた生産用具も、漁具に加え林業の道具、農具など多岐にわたっています。多面的でバランスの取れた、なりわいの現場をのぞき見ます。



重要有形民俗文化財
隠岐島後の生産具
鋸
隠岐郷土館蔵

第4章 国の付き合いにもいろいろあって ～戦時と平時の「交通」～

九州と朝鮮半島の間にある対馬や壱岐は、海を通して日本とも朝鮮半島とも行き来してきました。しかし、日本と新羅のバトルが激しさを増す中で、“日本の西の境界”という立ち位置がハッキリしていき

れた「防人」が送り込まれ、日本側の前線基地のようになりまし。銃後の九州を治める大宰府も、山城で防衛され、緊張と隣り合わせでした。

しかし、平安時代・9世紀になると、人々の行き来は多くなり、日本海は緊張をはらみながらも人々が

つながる場ともなっていました。

移り変わる島の性格を紹介していきます。



外浜遺跡出土
緑釉百合口瓶
西ノ島町教育委員会蔵

エピソード 政治の「敗者」と文化の「勝者」

隠岐には、都で政治的「敗者」となった都びとが流されてきましたが、それらの

人々によって都の文化がもたらされるという面もありました。伝わった文化、芸能、娯楽が守り続けられ、重層する各時代の文化をタイムカプセルのように抱え込んだ、隠岐文化の豊かさに注目します。



へんしょういん
遍照院旧蔵
天王立像
隠岐の島町教育委員会蔵

関連講座 オンラインで同時配信

1. 古代隠岐国の官衙

3月23日(土) 10:00~11:30

講師:大橋泰夫氏(島根大学法文学部教授)

2. 古代隠岐の木簡を読み解く

4月7日(日) 10:00~11:30

講師:市 大樹氏(大阪大学大学院人文学研究科教授)

3. 古代隠岐の寺院と瓦

4月20日(土) 13:30~15:00

講師:花谷 浩氏(出雲弥生の森博物館館長)

会場/古代出雲歴史博物館 講義室

定員/各回60名(要事前申込) 参加無料

ギャラリートーク担当学芸員による展示解説

日時:3月23日(土) 14:00~15:00

4月7日(日) 14:00~15:00

4月20日(土) 10:00~11:00

定員/各回20名(要事前申込)

■参加には企画展観覧券もしくはミュージアムパスポートが必要です。

■当日は集合時間までに特別展示室入口付近にお集まりください。

関連イベント

木簡キーホルダーをつくってみよう

日時:4月21日(日)

午前の部10:30~11:30

午後の部13:00~14:00

定員:各20名 参加費:300円

会場:古代出雲歴史博物館 体験工房



■関連講座・関連イベント・ギャラリートーク共通

【お申し込み方法】電話・FAX・ホームページのイベント参加フォーム(しまね電子申請)のいずれかで事前にお申し込みください。

【お申し込み先】TEL.0853-53-8600

FAX.0853-53-5350

<https://www.izm.ed.jp>

※【個人情報の取り扱いについて】この申し込みによって収集した個人情報は、島根県の規定に従って取り扱い、お申し込みいただいたイベント開催の目的にのみ利用するほかは法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

企画展

荒神谷発見! — 出雲の弥生文化 —

◎会期／令和6年7月12日(金)～9月8日(日)

■開館時間／9:00～18:00

■会期中の休館日／7月16日(火)、8月6日(火)、20日(火)、9月3日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター



荒神谷遺跡銅剣取り上げ状況

今から40年前の昭和59年(1984)の夏、農道建設の事前調査をきっかけに、出雲市斐川町の荒神谷遺跡で358本もの銅剣が発見されました。この驚異的なニュースは全国を駆け巡り、翌年に銅鐸6個・銅矛16本が出土したことで、それまで神話や古代史から考えられていた古代出雲のイメージは大きく変わります。それから12年後の平成8年(1996)、雲南市加茂町の農道工事で削られた斜面から39個の銅鐸が出土し、加茂岩倉遺跡の名と共に、再び古代出雲は全国から注目されることとなりました。

しかし、出雲の弥生青銅器大量埋納の謎は、荒神谷の銅剣発見以来40年間続く調査と研究でも、必ずしも解き明かされたとはいえません。大量の青銅器はどこで製作され、いつ埋納されたのか…。荒神谷遺跡で大量の青銅器が見つかった当時、島根県では弥生時代の資料は一部の地域で確認されているだけでした。その後、昭和60年代から平成20年代にかけて、開発事業ともなう膨大な発掘調査が行われ、島根の弥生人のくらしや周辺地域との交流に関わる多数の資料が確認されました。青銅器大量埋納の謎を解くカギは、このビッグデータの中にあると考えられます。

本展では出雲で出土した弥生時代の資料から、水田農耕や住まいと食事、木工や玉作といった各種手工業生産など、当時の生活の様子を紹介します。また、弥生人がまつりの道具として採用した青銅器の製作から使用について、北部九州と近畿地方の資料で紹介いたします。中でも、出雲の銅鐸と同じ鑄型で作られた吉野ヶ里銅鐸や松帆銅鐸が並ぶ展示は、またとない機会ですので是非ご覧ください。



兵庫県指定重要有形文化財 松帆銅鐸・吉野ヶ里銅鐸
南あわじ市教育委員会蔵



島根県指定文化財 伝出雲出土銅鐸
一般財団法人八雲本陣記念財団蔵

佐賀県指定文化財 吉野ヶ里遺跡出土銅鐸
佐賀県教育委員会蔵



荒神谷遺跡現地説明会

ミュージアムカフェが営業再開しました

令和5年7月8日から大雨による災害復旧工事のため、カフェの営業を休止するなどご不便をおかけしておりましたが、このたび工事が完了し、下記のとおり営業を再開いたしました。

ご来館の際にはぜひお立ち寄りください。みなさまのご来店を心よりお待ちしております。



ミュージアムカフェ
maru café
3月8日より営業を再開しました



ミュージアム
ショップ
3月13日より元の場所で営業を再開しました

ミュージアムカフェ☆通信

企画展「誕生、隠岐国」コラボメニューが期間限定で新発売!

ローソク島パフェ



隠岐島後の北西、代海岸の沖合いに突き出た奇岩「ローソク島」。先端に夕日が灯る姿はとても優雅です。そんな、隠岐を代表する風景のひとつ「ローソク島」をモチーフとしたスイーツが

企画展「誕生、隠岐国」とのコラボメニューとしてと登場。その名も「ローソク島パフェ」。夕日に見立てたオレンジは皮ごと召し上がっていただけます。1日10食の限定販売で価格は750円。隠岐の雄大な大自然に思いを馳せながら、ぜひご賞味ください。

2024年 古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール

企画展

誕生、隠岐国

2024年3月22日(金)～5月19日(日)



重要文化財 双六古墳出土
単鳳環頭大刀柄頭
出雲市教育委員会蔵

企画展

荒神谷発見! —出雲の弥生文化—

2024年7月12日(金)～9月8日(日)



国宝 荒神谷遺跡出土品
文化庁保管

企画展

山陰の戦乱 —月山富田城の時代—

2024年10月11日(金)～12月8日(日)



重要文化財 いろろむすし
佐太神社蔵

お知らせ

古代出雲歴史博物館は耐震改修工事等のため、令和7年4月～令和8年9月(予定)の間、休館を予定しています。ご迷惑をお掛けすることとなりますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。詳細な日程や再開時期につきましては、決定次第当館ホームページなどでお知らせいたします。

どこ行く? りきほく!



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間 / 9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)
休館日 / 第1・第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



発行 / 令和6年3月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん